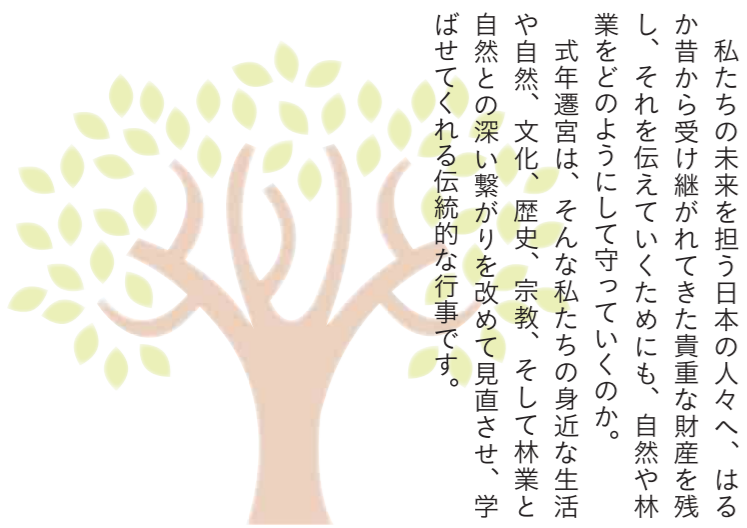


知って納得
コラム The newest industry column.
Sengu

Image photo

式年遷宮から、未来、
そして今の日本を知る。

私たちの自然を敬う気持ち、自然を怖れる気持ち。
このような日本人の自然に対する敬虔な気持ち、どこから生まれ、どのように受け継がれてきたのか。
そんな日本人の原点を確認できる場所が、伊勢神宮です。
伊勢神宮は20年に一度、式年遷宮と呼ばれる、伊勢神宮の遷宮が行われます。
遷宮とは、神社の本殿を修理したり、新しく造営したりする際に御神体を遷すことを言います。
伊勢神宮の場合は正殿を新しく造営し、そこに内宮に祀られる天照大御神（あまてらすおおみかみ）と、外宮に祀られる豊受大御神（とようけおおみかみ）を遷します。
この伊勢神宮の式年遷宮にあたっては、正殿を新しく造営するだけでなく、別宮の社殿、鳥居、御垣、正殿の装飾や器物、さらには内宮・外宮の参道口にある橋まで、多くのものが新しく造営されます。
そのため式年遷宮は、良質なヒノキが1万本以上使用される、壮大な行事となっています。
式年遷宮は20年に一度ではありませんが、その壮大な計画故に近年、遷宮に必要な木材が不足してきています。
200年計画で植林するなどの試みも行われていますが、それでもヒノキが足りません。
今年、遷宮上初めて、青森産のあすなろが伊勢神宮参道口の宇治橋や、火除橋などに使われることとなりました。



このようなヒノキの資源量が不足している背景には、林業にかかる人の減少が背景にあります。
伊勢神宮の遷宮に使われる木材のほとんどは、現在の「御杉山（みそまやま）」と呼ばれる木曾山から用意されているのですが、式年遷宮に使う天然ヒノキの資源量が林業の衰退や大量伐採など、さまざまな要因によって減少しており、今年、青森産のあすなろを一部使用するだけでなく、植栽を進めていた伊勢神宮宮域林と呼ばれる、伊勢神宮・内宮を囲む林から出た間伐材を、全用材の25%程度使うことになりました。
私たちの日常生活と、伊勢神宮の式年遷宮とは、実は遠いようで密接なつながりがあります。
私たちの未来を担う日本の人々へ、はるか昔から受け継がれてきた貴重な財産を残し、それを伝えていくためにも、自然や林業をどのようにして守っていくのか。
式年遷宮は、そんな私たちの身近な生活や自然、文化、歴史、宗教、そして林業と自然との深い繋がりを改めて見直させ、学ばせてくれる伝統的な行事です。

「うつわと暮らしの蔵 日和」は今年の1月にオープンされたばかりの新しいお店です。
ここから「暮らしを豊かにするツール」として発信できたらと、蔵主（店主）の細田さんが地元・富田林をはじめ全国から選り抜いた作家さんの「うつわ」が数多くそろえられ、お店を彩っています。こだわりの「うつわ」は自分用にはもちろんですが、ギフトラッピングがとっても素敵で贈り物にもおすすめです!!
20年前にインテリアリストリストとして広告の仕事に携わっていた頃から「和」の物に触れる機会が多く、その中で出会った「うつわ」に魅了され、「いつか、『うつわ』のお店ができれば・・・。」と考えておられたそうです。
そんな長年の夢であるお店を始められたきっかけは、昨年春ふと目にした雑誌の「工房をもちませんか」の文字。そこからたくさんの偶然と家族や友人の協力を得て半年で古い蔵を改築し、ジャズが流れるおしゃれな店舗をオープンされました!
店内には、日和で取り扱う「うつわ」を使って、自ら料理盛りつけ、撮影をされた写真もたくさん飾られており、お店を訪れた方々に、「うつわ」の楽しみ方、料理の楽しみ方について沢山のアイデアを紹介されています。現在は薬膳料理に挑戦中で、ゆくゆくはお店で紹介できればとのこと、さらには日和から寺内町の情報発信、また個展などの開催も計画されており、これからも目が離せません!



DATA Vol.04 うつわと暮らしの蔵 日和

住所：富田林市富田林町 3-13
電話：0721-21-4232
営業時間：10：30～16：30
OPEN：水・木・金・土
<http://utuwa-hiyori.com> (ネット通信販売あり)



DATA Vol.05 寺内町Classico(クラシコ)

住所：富田林市富田林町 9-36
電話：0721-24-1454
OPEN：金 12：00～17：00 L.O.
(1月と8月は休業)
土 11：00～17：00 L.O.



元々この場所は店主である桑平さんの友人が経営するギャラリー（当時の店名は Terra (テラ)）で、当時桑平さんはカナダのアイアン製品（鉄でできたインテリア小物）やキャンドル等を個人輸入し卸されていたそうです。
2年前、その友人が店をやめられたことをきっかけにそのギャラリーを引き継がれ、店名をクラシコのイタリア語「クラシコ」（特別なもの・伝統的なもの）に変更し、出来る限り日本伝統のものにこだわって、アンティークな器や着物の反物を利用したクッション等、古くて美しいものを販売されています。（※クッションはオーダー可能です）
桑平さんが大切にされている「この店で昔の良い物を今に繋いでいくきっかけづくりができれば・・・。」との想いは、そのたまたままいからも伝わってくるような素敵な空間です。
また、寺内町を散歩された方々がゆっくり過ごせ、女性ひとりでもくつろげるような場所を提供したいと、カフェも併設されています。昔懐かし、落ち着いた雰囲気のある店内でほっと一息休憩されてみてはいかがでしょうか。

次号は「中林寝装店」と「峯風庵」を紹介します。お楽しみに!